

すわみつえ通信

No.158 2021年1月25日(月)

日本共産党鴻巣市議会議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

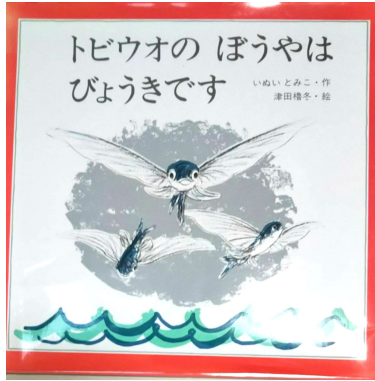
すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かしいのちとくらしを守る市政に

第五福竜丸の悲劇を知った著者が、核兵器廃絶への願いを込めて、平和の尊さをわかりやすく描いた絵本。



いぬい とみこ・作
津田櫓冬・絵
金の星社・出版社

核兵器禁止条約の 発効に思う

働きながら子育てをしてきて、いつも急がせてばかりの寝められた育児ではありませんでした。寝る前の絵本の読み聞かせは子どもたちとの楽しいひとときでした。

手放せない数冊が手元にあり、その中の1冊が「トビウオのぼうやはびょうきです」。1954年3月1日の米国によるビキニ環礁で行われた水爆実験を、海の生物の物語にして告発しています。巻頭に「核兵器を地球からなくそう」という気持ちでつくりあげました。」と書かれています。ページをめくると今でも胸がつまります。

平和への願いを子や孫に伝えるとともに、世界中の人と核兵器のない世界へ一歩を進めたいと思います。



市民が野党をつなぐ埼玉6区連絡会 19行動
参加者: 45人
＝鴻巣駅東口、1月19日
17:30～18:30

特養ホーム「(仮称)第二福富の郷」建設 計画を取り下げ

「整備に支障なし」とした市は適切な判断だったか！

鴻巣市長・原口和久氏が所有する安養寺の農地2500㎡への、特養ホーム建設の計画は、このとり福祉会が2021年1月15日に埼玉県に取り下げを申請し、受理されました。取り下げ理由は「市長の土地利用に際し、住民からの理解を得られないため」となっています。

このとり福祉会が2018年8月に県に申請した計画書では「2018年7月6日に地元説明会を行った」としていますが、この説明会は地元自治会長等わずか5名の参加です。県が同年末に事業採択をした後にも、近隣住民への説明会はいきませんでした。この間、計画地につながる道路がいきなり改修され、建設の看板が立てられて、ずさんな計画が知られることとなりました。

地元住民の要望署名で 建設計画を取り下げ

このとり福祉会は、昨年12月11日に初めて地域住民説明会を開催しましたが、今までの行為に住民から不満の声が上がりました。汚水排水のインフラ整備など多くの問題を抱えた建設計画に、地元住民は県に地元の半数以上の反対署名を添えた要望書を提出しました。このとり福祉会は県から住民の意思を聞き、取り下げたというの正しい見方ではないでしょうか。

3月議会でさらなる追及を

すわみつえ市議は、2018年9月議会よりこの特養ホームについて、一般質問を重ねてまいりました。特養ホームの入所を待ち望んでいる多くの方が、安心して利用できるよう、適切な場所に適切な事業者が建設することに市は責任を持つべきと思います。

とりわけ県が事業採択するためには市が提出する「意見書」は重要視されています。特養ホームの建設にあたっては、今回のような事例とならないよう3月議会でも求めていきます。

俳句コーナー

門梅や核無き世への希求込め

瑠璃子

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

核兵器禁止条約が発効

世界51ヵ国が批准

日本政府は参加を



2017年7月7日 国連本部で採択

核兵器禁止条約は2017年7月に国連会議で、122ヵ国の賛成で採択されました。発効に必要な50ヵ国の批准を昨年10月に達成。現在51ヵ国が批准しています。核兵器の開発や実験、保有などを全面的に禁じる核兵器禁止条約が1月22日、発効しました。

しかしながら、唯一の被爆国の日本政府が世界の流れに背を向け続けています。核兵器に固執する米国と密接な関係にある日本が禁止条約に署名・批准すれば、「核軍縮の停滞」が言われる情勢にも前向きな変化をもたらし、「核兵器のない世界」の実現に貢献できます。日本政府は「被爆国にふさわしい世界への発信と行動」を取る責任があります。

原爆を題材にした映画を制作する有原誠治さん(72)＝東京＝は、1月22日に発効した核兵器禁止条約が禁止する、開発や実験など7項目を“悪魔”をイメージしたキャラクターなどで分かりやすく紹介するイラストを作成した。有原さんは、絵を通じて「核兵器の問題を身近に感じ、関心を持ってほしい」と話している。イラストは、昨年12月末、条約の内容や核軍縮の現状を世間に知ってもらおうと制作を開始。色鉛筆と水彩絵の具を使って1週間ほどで描き上げた。

描いたのは「核兵器禁止条約が×にしたこと」と題し、▽開発▽実験▽製造▽備蓄▽委譲▽使用▽使用の威嚇、の7つ。紫と青のオリジナルのキャラクターは、核兵器のおぞましさをイメージ。子どもから大人まで理解できるよう、漫画風の作画にした。

「開発」は、定規などを使って核兵器を設計している様子を表現。羽ペンから滴るインクは、核兵器を使用することで生まれる被害を血の赤でイメージした。「備蓄」は、青い悪魔が核兵器のそばで赤いボタンを押そうとしており、核のボタンはいつ押されるか分からない状況にあると表現している。「使用の威嚇」は、腕を組んで威張る核兵器の前に、2人の悪魔が相手を挑発。悪魔の表情や態度から、核抑止論の愚かさを表現している。

【長崎新聞 1月22日付】

《下のイラストは、作者の有原誠治さんから広く利用してほしいと、承諾をいただき掲載いたしました。》

The Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons bans

核兵器禁止条約が×にしたこと



1. 開発

DEVELOPMENT



2. 実験

TESTING



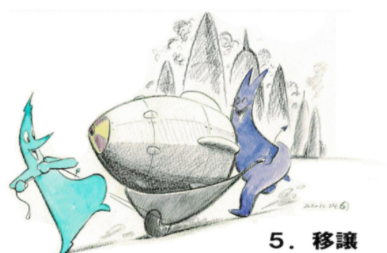
3. 製造

PRODUCTION



4. 備蓄

STOCKPIILING



5. 移譲

TRANSFER



6. 使用

USE



7. 使用するとの威嚇

THREATENING TO USE